

# 橋本武子

はしもと たけこ  
周防大島町  
(1913~1992)



【著作】  
歌集『黒髪抄』（昭和24・白井書房）  
歌集『黒衣』（昭32・新星書房）  
歌集『ゆく水』（昭47・短歌新聞社）  
ほか

「短歌人会」主宰の齋藤瀏に師事し、第1回齋藤瀏賞を受賞した橋本武子は大正二年（一九一三）六月十二日に大島郡小松志佐村（現・周防大島町）に生まれる。大正十五年（一九二六）久賀高等女学校に入学、この頃から独学で短歌を作り始め、作品が交友会誌『古濃盤南』に残っている。当時からその実力は並外れたものがあり、異彩を放っているが、夫の靖の勤務で東京、大島を往復するようになった昭和十四年（一九三九）、師齋藤瀏に出会うことにより、一気に開花する。一方、東京と大島を往復しているうちに、地元有志に請われ、昭和二十一年（一九四六）、武子は青潮短歌会を立ち上げ、自らその主宰となり、歌誌『青潮』を創刊する。昭和二十四年（一九四九）、第一歌集『黒髪抄』を出版し、出版祝賀会には、知己の歌人齋藤史、長沢美津を招聘している。また、昭和二十六年（一九五一）には歌人生方たつをを迎え、五周年記念大会を開催するなど、中央から多くの歌人を積極的に迎え、地方短歌のレベルアップに少なからぬ貢献をしてゆく。地域への貢献といえば、東京、大阪、広島及び山口県全域に支部を設ける他、岩国図書館短歌講座の初代講師を勤めるなど、短歌人養成に力を注ぎ、山口県内の短歌人口増大に大きな足跡を残している。昭和二十八年（一九五三）、齋藤瀏が逝去。武子は悲嘆のあまり、一時歌作から遠ざかるが、昭和三十年（一九五五）、齋藤瀏賞を受賞。続いて山口県芸術文化奨励賞を受賞する等により、第二歌集『黒衣』を出版するまでになる。そんな武子に昭和五十年（一九七五）、夫の靖が逝去。二年後には東京に転居するが、昭和五十四年（一九七九）山口県文化功労賞を受賞。更に発展の地岩国市と発祥の地大島町に歌碑が次々建立される。その武子の短歌は洗練された言葉による繊細さと言いつけりのよい表現が特徴で、心象、幽玄の世界は人を惹きつけてやまない。平成四年（一九九二）三月十三日、肺癌のため、七十八歳で逝去。命日を雛芥子忌として、平成二十七年（二〇一五）に七十周年記念大会を迎える。

（文・音羽 晃）



洞泉寺（岩国市）



龍心寺（周防大島町）

## 作品抄

摘みためし花々いつか手にあふれこの道すでに春昏れむとす  
ひむがしの海になだれてこの村や山一面の蜜柑黄に照る  
永遠をふかくは思へをみなわれ今日のうつつの黒髪を愛づ  
いみじかるひとのまいのちふれしよりこの身珠とも貴ばれつつ

（『黒髪抄』）

薺めきてかのけものらが水のみし黄昏の沼はわれひとり知る  
わが周囲すでに昏るると思はねど彩なき花の群落も見き  
氷結の谷に拾ひし鍵ひとつふところにして昼は眠れり  
ほとばしる心懼れて纏ひたる黒衣もいつか身にそぐひ来し

（『黒衣』）

風に揉まるる木群の奥に白き花つけし一樹がただよぶごとし  
長らへたくもあらぬいちにん養ふと生きのいのちの幾つを奪ふ  
手を垂れてたたずむ吾と影と在り頭上深淵のごとき冬空  
片空にしぐれの雲を残しつつ野の上徐々に虹は懸れり

（『ゆく水』）

一望に空をうつしてしづまり魚族いまだ棲まぬ養魚池  
蒼ずみて湖は眸となる、晩年の寂しかりにしひとおもふとき  
水のはとりへ行かうよ水のはとりには死者の鎮めの方の歌あり  
風の彼方に待つは何ぞも満々と吹かれてゆけばいのち無碍なる

（『水辺唱』）

## 橋本武子 年譜

（提供・音羽 晃）

大正2（一九一三年）	七歳	6月12日、山口県大島郡小松志佐村（現・周防大島町）に塩田主の父橋本友右衛門と母フジの長女として生まれる。
大正15（一九二六年）	一三歳	4月、久賀高等女学校に入学。独学で短歌を詠み始める。
昭和8（一九三三年）	二〇歳	9月、百貨店勤務の梅本靖と結婚。靖の勤務地東京と大島を往復する。
昭和14（一九三九年）	二六歳	齋藤瀏主宰の「短歌人会」（東京）に入る。
昭和21（一九四六年）	三三歳	4月、地元大島に「青潮短歌会」が発足。主宰となる。歌誌『青潮』を創刊する。
昭和24（一九四九年）	三六歳	3月、第一歌集『黒髪抄』を出版。
昭和28（一九五三年）	四〇歳	7月、齋藤瀏死去。
昭和30（一九五五年）	四二歳	1月、第一回齋藤瀏賞受賞。山口県芸術文化振興奨励賞受賞。
昭和32（一九五七年）	四四歳	8月、青潮短歌会事務局を岩国図書館内に移す。10月、第二歌集『黒衣』を出版。
昭和37（一九六二年）	四九歳	青潮創刊15周年を記念して「青潮賞」を設ける。
昭和40（一九六五年）	五二歳	11月、岩国市立岩国図書館短歌講座の初代講師を勤める。
昭和47（一九七二年）	五九歳	7月、第三歌集『ゆく水』出版。
昭和50（一九七五年）	六二歳	夫の靖が死去。
昭和52（一九七七年）	六四歳	1月、東京へ転居。11月、岩国市洞泉寺に歌碑建立。
昭和54（一九七九年）	六六歳	11月、山口県文化功労賞受賞。
昭和60（一九八五年）	七二歳	1月、第四歌集『水辺唱』出版。
昭和61（一九八六年）	七三歳	5月、青潮創刊40周年を記念して合同歌集『青潮』を出版。
昭和63（一九八八年）	七五歳	10月、大島郡大島町西屋代の龍心寺に歌碑建立。
平成4（一九九二年）	七八歳	3月13日、肺ガンのため死去。